

令和5年11月7日

繊維産地の福井から完全・循環型テキスタイルの拠点へ 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野（育成型）採択 （お知らせ）

本学産学官連携本部は、福井県と共同で、福井の豊かな産業と暮らしを支えてきた繊維産業のグランドデザインの革新に挑み、繊維産地である福井から「脱・環境破壊」をブランドにした完全・循環型テキスタイルを創出します。

今回の採択により、これまで製織→染色→縫製→販売→廃棄という一方通行であった繊維製品に対し、本学がリードしている超臨界CO₂無水染色整理技術で可能となる繊維の脱色・再生により、廃棄をなくし、完全リサイクルを実現するプロセスの開発・実証を進めます（図1）。

さらには福井県下の教育、人文・社会学、デザイン等に関わる多様な人々が、ユーザーが自然な流れでリサイクルに参画できる行動変容を促すアイデアを持ち寄り、科学技術と文化が繋がる新しい繊維産地の実現を目指します。

記

【発表解禁日】 令和5年11月7日（火）

【事業名】 研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野（育成型）

【採択に関する学長コメント 上田 孝典】

私たちの生活の営みの柱である「衣食住」も気候変動や温暖化といった課題に向け、変革期を迎えねばなりません。そのうち、福井県が培ってきた繊維・「衣」の技術に焦点をあて、福井県と共同で、繊維を中心とした地域共創の場から、イノベーションを生む土壌を育み、福井県が誇る完全・循環型テキスタイル拠点を創出していきます。

裏 面 : 事業概要

リリース先 : 福井大学 教育・スポーツ記者クラブ
福井県 県政記者クラブ

【本件に関する問い合わせ】

○産学官連携本部

徳田 加奈

TEL: 0776-27-9775

事業概要

【事業名】 研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野（育成型）

【拠点名】 環境・デザインを突破口とする未来創造テキスタイル共創拠点

【事業開始】 令和5年11月1日

【事業主体】 福井大学産学官連携本部

【事業費】 2.5千万円／年度（令和5年～6年（2年度））

（科学技術振興機構（JST）採択）

【事業プロジェクトリーダー】 国立大学法人福井大学 産学官連携本部 本部長 米沢 晋

【運営組織】 **代表機関** 国立大学法人福井大学

参画機関 福井県立大学、仁愛女子短期大学、福井工業高等専門学校、産業技術総合研究所、東京大学、セーレン株式会社、ウラセ株式会社、清川メッキ工業株式会社、サステナテック株式会社、NPO 法人繊維技術活性化協会、福井商工会議所、福井県、福井市、鯖江市

【研究開発課題】

- 無水染色整理技術開発
超臨界CO₂利用無水染色整理技術の水を使わない繊維の脱色工程への適用、導電性繊維の開発
- 完全リサイクル技術開発
産業廃棄物となるポリエステル等の合成繊維のケミカルリサイクル技術の開発、分離・分別や精製を合理的に実現する工程の確立
- IT融合産業化技術開発
スマートテキスタイルにより繊維製品をIT端末化、トレーサビリティ基盤技術の開発
- 多様な人々によるビジネス創造
消費者を含む多様な人々の視点から人・社会・地域・環境に配慮したエシカル消費に基づく解決策の探索、行動変容を促すビジネスの創造
- 産地再生に必要な共有価値創造
繊維産地の再生に必要な市場調査とイノベーション施策の探索

【拠点ビジョン等】

繊維産業は福井地域の基盤的産業であり、福井の豊かな産業とくらしを支えてきましたが、その繊維産業は、国連貿易開発会議（UNCTAD）により、水資源（真水）の大量消費や廃棄物大量排出を伴うことを理由に、石油産業に次ぐ世界2位の環境破壊型産業であるとされています。福井大学、自治体、地域企業に加え、地域内外の様々な関係者による対話を経て、「産地」なればこそ環境破壊型の産業構造の革新に挑み、持続可能な社会づくりを推進していきたいという強い想いを共有するに至りました。産学官が一体となり未来を共創する場を形成して、「脱・環境破壊をブランドとする、多様な人々の協働による新繊維産地の実現」をビジョンに、繊維産業のグランドデザインを見直し、「採って」「作って」「使って」「捨てる」という一方通行から、「作って」「使って」「戻して」という循環を生む産業構造の変革に挑みます。

福井大学はこれまでに超臨界CO₂利用無水染色整理技術について、地域企業と共に研究開発を進めてきましたが、この全く水を使わずに染色・脱色ができる革新的な技術を、加工だけでなくリサイクルプロセスにも導入できることを実証します。同時に、産業廃棄物のケミカルリサイクル技術の開発を進め、完全リサイクルを実現するための繊維産業の持続化基盤技術を確立します。またリサイクルの社会定着に際して大きな問題となる「回収」という人の行動についても、スマートテキスタイルを活用したトレーサビリティ基盤の確立と合わせ、多様な人々の視点からエシカル消費を誘発する新しい価値の創造とビジネスの創出に取り組むことで、リサイクルを社会に定着させます。これらのターゲットを達成するため、福井大学は、福井県、福井市、鯖江市、福井県立大学、仁愛女子短期大学、産業技術総合研究所、東京大学、地域企業とともに、地域共創のためのデザイン思考、枠を超えた対話、リーンな試行、スタートアップ創出・育成を持続的に行える「共創の場」を形成します（図2）。

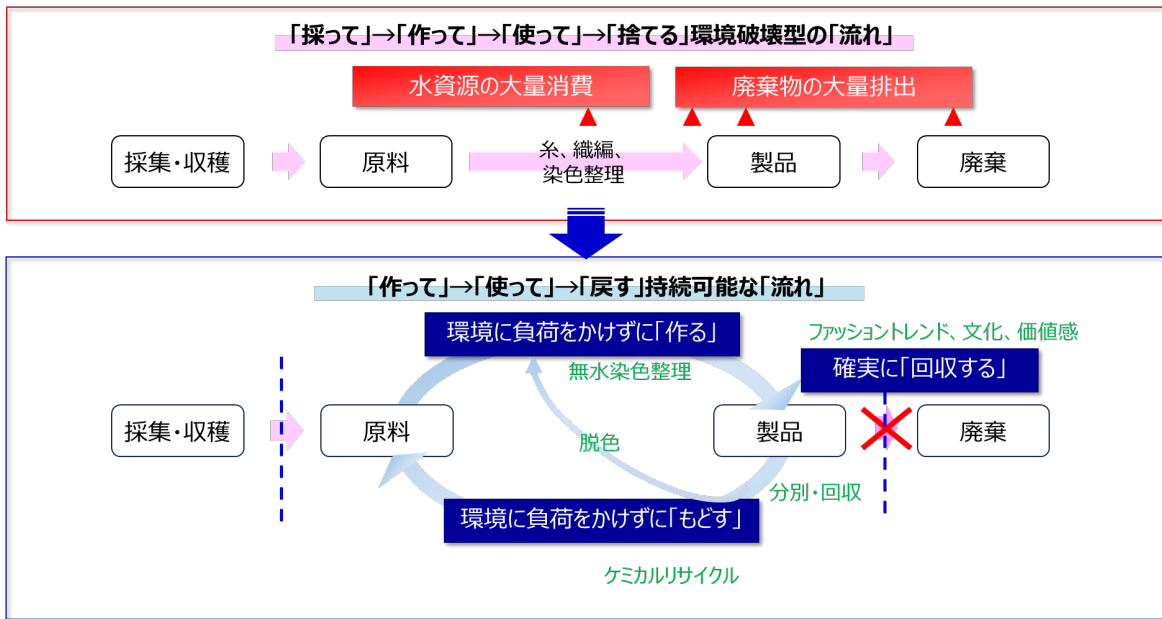


図1 完全リサイクルを実現するためのプロセス



図2 本拠点の概要

【事業名】 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野（育成型）について
 （科学技術振興機構）下記URL 抜粋

https://www.jst.go.jp/pf/platform/file/coinext_pamphlet2023a3.pdf

ウィズ/ポストコロナ時代を見据えつつ、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に基づく未来のありたい社会像を拠点ビジョン（地域共創分野では地域拠点ビジョン）として掲げ、その実現のため「バックキャストによるイノベーションに資する研究開発」とそれを支える「自立的・持続的な拠点の形成が可能な産学官共創システムの構築」をパッケージで推進します。これを通じて、大学等の強みや特色を活かしながら産学官の共創による拠点の形成を推進し、国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進します。